

**入場無料**

特別講演会／143周年灯台記念日企画

# 「灯台に見る日本の近代」



(講師)

**藤岡 洋保 教授**

東京工業大学大学院  
理工学研究科／建築学  
(広島市出身)

日時 平成23年10月21日(金)  
15:30～17:40  
(受付開始 14:30)

場所 グランドプリンスホテル広島  
2F「瀬戸内」  
(広島市南区元宇品町23-1)



[バスの時刻表はこちら](#)

**主催:第六管区海上保安本部**

後援(予定):広島県教育委員会、広島市教育委員会、  
(社)燈光会、(財)海上保安協会広島地方本部

**聴講には事前の申し込みが必要です。**

【申し込み方法】

平成23年10月13日(木)までにハガキ、FAX又はeメールで件名を「**灯台講演会参加希望**」として、代表者の住所・氏名・電話番号・参加人数を明記のうえ、右記まで申し込み下さい。

【申し込み先】

ハガキ：〒734-8560  
広島市南区宇品海岸3-10-17  
第六管区海上保安本部交通部  
FAX：082-253-8475  
E-mail：[koho6-s59m@kaiho.mlit.go.jp](mailto:koho6-s59m@kaiho.mlit.go.jp)

※応募頂いた個人情報適切に管理し、目的以外に利用することはありません。

【問い合わせ先】

第六管区海上保安本部交通部企画課 TEL082-251-5111 (内線2611)

# 講演に当たって

東京工業大学大学院  
理工学研究科／建築学

藤岡 洋保 教授



今では一般に、灯台はノスタルジックな目で見られることが多いと思われます。しかし、明治時代においては、近代化を促進するためのもっとも重要な施設の一つでしたし、その建設のきっかけや位置の選定には日本をめぐる国際情勢が関係しています。ですから、洋式灯台導入の歴史には、当時の国際関係やそれに対する日本政府の意向が反映しているのを見ることができます。

また、灯台は、洋風技術の導入の仕方を研究するうえでも重要な例です。洋式灯台はフランスやイギリスから技術を導入してつくられたわけですが、その母国とまったく同じやり方を適用したくても材料や施工上の制約などがあってできなかったのので、現場で臨機応変に対応しなくてはなりませんでした。

その点で、洋風技術が日本にどのようにとり入れられたのかを知るためのいい例といえます。

さらには、明治時代には灯台の建設誘致運動が各地で見られたのですが、それは地域の発展に欠かせない施設と考えられたからです。そこには、自立的発展をめざす各地域の意向が示されています。

日本近代の歴史は、政治の中心地、つまり東京を中心に書かれることが多いのですが、灯台の誘致運動に注目すると、地域から見た歴史を知ることができるわけです。

従来、日本の灯台史研究は明治時代、それも特にその初期に注目が集まっていたと申し上げていいでしょう。また、工事の困難さを強調する傾向も見られました。しかし、大正時代においても、鉄筋コンクリート造をはじめとする新しい技術の導入があったわけですし、それにとまなう新しい課題への対応が求められました。それに前向きに取り組んだ優秀な技術者もいました。また、難工事とはいえなくても、灯塔に日本独自の構造的工夫をしている例もあります。それらを含めて、技術史という観点からも、灯台史研究には、より広範で冷静な評価が必要と考えられます。

このようなことを踏まえながら、今日は、“戦前の灯台建設の歴史”というテーマを通して、そこに日本の近代化の過程が見られること、注目すべき技術的な試みがなされていたこと、優れた灯台技術者がいたことなどをお話ししますが、それを通して、灯台からいろいろなことを学べることを感じとっていただければと思います。

↓ FAXによる申し込みの場合にご利用下さい。 ↓

## 灯台講演会参加希望

代表者ご氏名	
ご住所	
電話番号	
FAX番号	
参加ご希望人数	名

【FAX送付先】 第六管区海上保安本部交通部企画課  
082-253-8475 (FAX)

※応募頂いた個人情報は適切に管理し、  
目的以外に利用することはありません。